

主要経済指標等 (2012年)

- 人口 ..... 80万人
- GNI 総額 ..... 28.50億ドル
- GNI 一人あたり ..... 3,410ドル
- 経済成長率 ..... 4.8%
- 失業率 ..... 21.7%
- 対外債務残高 ..... 19.74億ドル
- 援助受取総額 (支出純額) ..... 1.14億ドル
- D A C分類 ..... 低所得国
- 世界銀行分類 ..... iii / 低所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対ガイアナ援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2009 年度	-	0.08	0.64(0.64)
2010 年度	-	2.89	1.12(1.11)
2011 年度	-	3.11	1.23(1.21)
2012 年度	-	0.10	0.68(0.66)
2013 年度	-	3.22	0.51
累 計	-	140.57	15.12(14.92)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDG s) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標 1 : 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	6.9%(1993)	8.7%(1998)
●目標 2 : 初等教育における純就学率	98.5%(1991)	82.7%(2011)
●目標 3 : 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	0.96人(1991)	1.04人(2011)
●目標 4 : 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	60.0人(1990)	35.2人(2012)
●目標 5 : 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	180人(1990)	280人(2010)
●目標 6 : 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	-	0.02%(2011)
●目標 7 : 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	88.0%(1994)	94.5%(2011)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

ガイアナに対する我が国ODA概要

1. 概要

ガイアナに対する我が国の経済協力は、1974年の水産無償資金協力で始まり、2005年には我が国と技術協力協定を締結した。我が国は、現在、主要ドナー国の一つとして、研修員の受入れ、専門家やボランティアの派遣等を中心とした技術協力、一般無償資金協力、草の根・人間の安全保障無償資金協力などを実施している。

2. 意義

ガイアナを含むカリブ共同体 (カリコム) 加盟諸国が位置するカリブ海地域には島嶼国が多く、ハリケーンや地震、津波などの自然災害が頻発する地域である点や、海洋生物資源の持続可能な利用を推進している点などで、我が国との共通性を有している。同地域の国々は、気候変動や自然災害に対する脆弱性を抱えていることに加え、人口・経済規模が小さく、農業、水産業、観光業など外的要因に影響されやすい産業が基盤となっている。こうしたカリブ海地域共通の課題克服のために、我が国が経験・知見を共有し、側面支援を行うことは、二国間関係の深化に加えて、各国の社会経済的安定および地域全体の持続的成長の観点から重要である。

3. 基本方針

2010年9月の第2回日・カリコム外相会議において策定された「日本とカリコム諸国との平和・開発・繁栄のためのパートナーシップ」を基調としつつ、環境に配慮した持続的開発と防災への取組を後押しすることで、カリコム加盟諸国が抱える気候変動などに対する脆弱性の克服を支援することを基本方針とする。

4. 重点分野

環境・防災：都市の環境保全を推進する観点から、3R (廃棄物の発生抑制 (リデュース)、再利用 (リユース)、再生利用 (リサイクル)) 推進を含めた廃棄物管理分野への支援を行う。また、人口の大部分が沿岸部の低海拔地域に住んでいることもあり、高潮や洪水などに関わる気候変動・防災分野への対策が必要であり、今後も継続して支援を実施していく。さらに水資源分野については、上水処理率向上、下水普及率向上および無収水率減少が主な課題となっており、同分野への支援を検討する。

※注) 1. 年度の区分および金額は原則、円借款および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2009年~2012年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2013年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。( )内はJICAが実施している技術協力の実績および累計となっている。

# ガイアナ

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細 (表-1の詳細)

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2011年度	なし	3.11億円 ・ 第二次東デメララ貯水池修復計画 (3.02) ・ 草の根・人間の安全保障無償(1件) (0.09)	
2012年度	なし	0.10億円 ・ 草の根・人間の安全保障無償(2件) (0.10)	
2013年度	なし	3.22億円 ・ ノン・プロジェクト無償(1件)(3.00) ・ 草の根・人間の安全保障無償(3件) (0.22)	
2013年度 までの累計	なし	140.57億円	15.12億円(14.92億円) 研修員受入 198人 専門家派遣 22人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2011年度以降に開始され2013年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [ ] 内は、協力期間。

表-3 我が国の対ガイアナ援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-	3.99 (0.23)	0.65	4.64
2010年	-	5.43	1.11	6.54
2011年	-	0.14	0.74	0.88
2012年	-	7.25	1.70	8.94
2013年	-	0.34 (0.20)	0.66	1.00
累計	-0.38	102.82 (0.98)	14.51	116.95

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協りに計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。( )内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。
2. 有償資金協力および無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、ガイアナ側の返済金額を差し引いた金額)。
3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁および地方自治体による技術協力を含む。

表-4 諸外国の対ガイアナ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2008年	米国 25.61	日本 7.75	英国 4.66	カナダ 2.70	ドイツ 0.82	7.75	41.91
2009年	米国 26.13	カナダ 5.60	日本 4.64	英国 2.15	ドイツ 1.11	4.64	40.64
2010年	ノルウェー 29.23	米国 21.88	日本 6.54	カナダ 3.73	英国 1.62	6.54	64.26
2011年	ノルウェー 39.07	米国 18.81	ドイツ 5.82	カナダ 4.07	オーストラリア 0.98	0.88	70.49
2012年	米国 17.33	日本 8.94	カナダ 2.37	英国 0.89	ドイツ 0.67	8.94	31.35

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対ガイアナ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2008年	EU Institutions 54.14	IDB Sp. Fund 43.59	CDB 11.95	GFATM 6.86	IDA 5.68	6.98	129.20
2009年	IDB Sp. Fund 63.66	EU Institutions 52.21	IDA 8.34	GFATM 7.36	CDB 1.60	3.35	136.52
2010年	IDB Sp. Fund 62.45	EU Institutions 29.25	CDB 5.99	GFATM 5.27	IDA 3.00	3.81	109.77
2011年	IDB Sp. Fund 55.01	EU Institutions 28.80	CDB 8.84	GFATM 7.36	UNDP 0.97	3.39	104.37
2012年	IDB Sp. Fund 54.21	EU Institutions 31.35	CDB 10.12	GFATM 1.19	IDA 1.10	4.10	102.07

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 2013年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

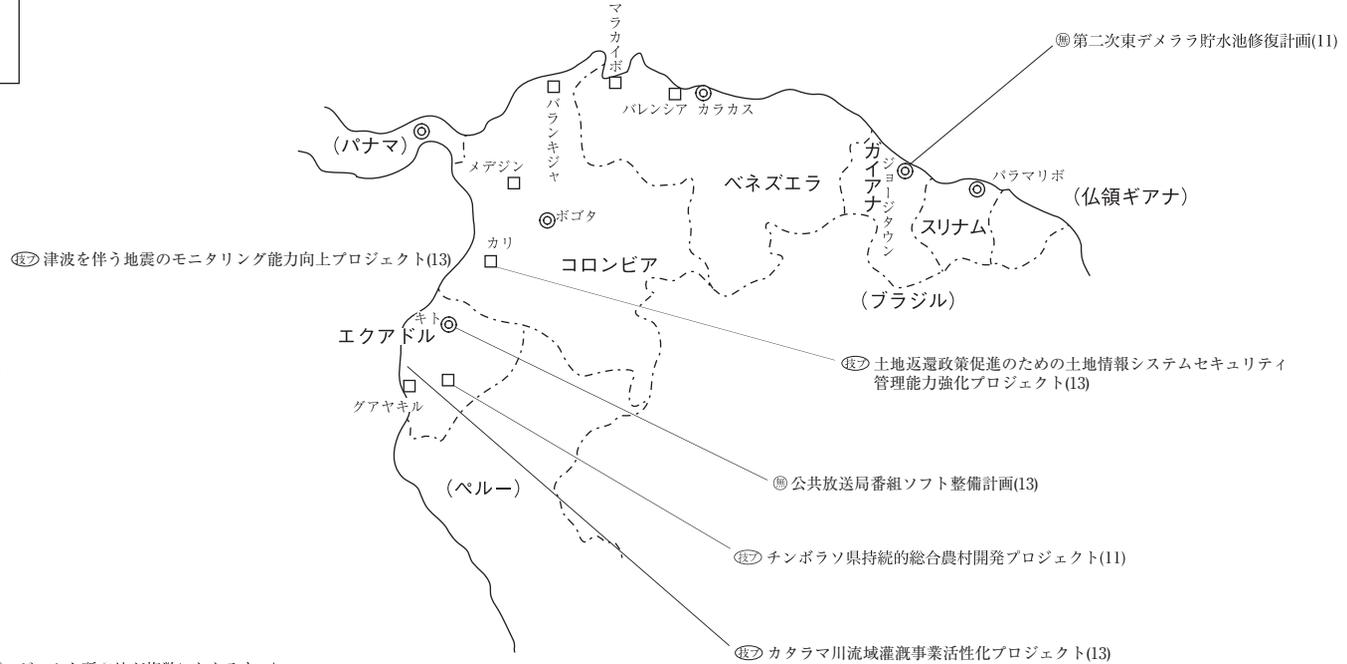
案 件 名
ガイアナの地方部における手話学校建設計画
ガイアナ赤十字社救急車整備計画
ガイアナの地方部における地域開発センター拡張計画

主なプロジェクト所在図

エクアドル、ガイアナ、コロンビア、スリナム、ベネズエラ



ガラパゴス諸島



〈プロジェクト所在地が複数にわたるもの〉

エクアドル

- ⑬実践的手法による訓練コースの開発と運営管理プロジェクト(11)  
(キトと複数地域 (詳細検討中))

コロンビア

- ⑩コミュニティ・先住民ラジオ放送局番組制作機材整備計画(11)  
(ラ・グアヒラ県、セサル県、ノルテ・デ・サンタンデル県、ナリーニョ県、プトウマジョ県)